

大山町議会議長 杉谷 洋一 様

大山町議会議員 近藤 大介



平成30年大山町議会議員研修報告書

1	日時	平成30年10月29日(月)～31日(水)	
2	研修地	滋賀県大津市 全国市町村国際文化研究所	
3	研修内容	(内容)	(場所)
		地方分権と自治体の行政改革	滋賀県大津市
4	研修結果 又は概要 (意見・感想)	<p>(1) 地方行政をめぐる最近の動向 講師：総務省自治行政局行政課 森 源二 課長</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・第32次地方制度調査会…高齢者人口のピーク2040年から逆算し、地方行政の諸課題を調査審議。自治体戦略2040構想研究会。 …首都近郊など都市圏で今後急速に進む高齢化、インフラの老朽化、労働力</li><li>・「町村議会のあり方に関する研究会」… 地方議会の現状…小規模自治体議員のなり手不足 持続可能な議会へ…(少数)集中専門型、(非専門)多数参画型の提案</li><li>・政治分野における男女共同参画の推進に関する法律(H30.5.23施行)</li><li>・「制度を変えなくても出来ることもたくさんある。(各自治体、議会で)もっと自主的に、自由に施策に取り組んでほしい。」(森課長)</li></ul> <p>(2) 地方分権の中で地方自治体に期待される役割(講義・演習導入) 内閣府地方分権改革推進室 萩原 英樹 審議官</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地方分権改革…住民に身近な行政は、住民に近い地方自治体が、自主的かつ総合的に担い、地域の諸課題に取り組む。</li><li>・第1次分権改革(H5～11)…地方分権一括法(H11)、機関委任事務廃止等</li><li>・第2次分権改革(H18～現在)…国による義務付け・枠付けの見直し</li><li>・提案募集方式の開始(H26～)…5年間で提案を行った市町村は約2割</li><li>・国の規制等が実情に合わない場合…市町村の提案で規制緩和が可能になる</li></ul> <p>(3) 地方分権時代のまちづくり 山形市 佐藤孝弘市長</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・東大卒、元通産官僚、起業、シンクタンク勤務を経てH23落下傘で山形市長選に自民推薦で出馬し落選、H27再度自公推薦で出馬し初当選。43歳。</li><li>・山形市の特長、強みを徹底的に伸ばす取り組みを推進。</li><li>・「考え方が変われば取り組みが変わる。取り組みが変われば成果が出る。」</li></ul>	

4	調査結果 又は概要 (意見・ 感想)	<p>(4) 地方分権の中で地方自治体に期待される役割 (演習・発表) 内閣府地方分権改革推進室 萩原 英樹 審議官</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班に分かれて、それぞれの自治体で課題になっていること話し合い、地方分権で解決できそうなことを検討。</li> <li>・近藤の班では、大山町の「トマシバ」を例に農地法、農振法の課題について事例発表した。</li> </ul>
	<p>(5) 地方分権の展望 一橋大学 辻 琢也 理事・副学長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の総人口は2004年をピークに、今後100年間で100年前の水準へ。</li> <li>・2100年の人口推計4700万人。過去に類を見ない、極めて急激な減少。</li> <li>・「個性を活かし自立した地方をつくる」「行政の質と効率を上げる」</li> <li>・市町村の職員が減った。委託事業が増え、「調整」の仕事が増えた結果、「現場」を知らない職員が増えた。←どう対応するか。</li> </ul>	
	<p>(6) 分権時代における地方議員のあり方 明治大学政治経済学部 牛山 久仁彦 教授</p> <p>《地方分権による変化》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治はどう変わるか…自治体に地方分権を引き受ける覚悟があるのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→自治体のあり方で、住民生活に格差が生まれる</li> <li>→自治体議員の責任も重くなる</li> </ul> </li> <li>住民の広範な意見反映／住民の合意形成／政策形成・立法／行政監視</li> <li>・自治体議会の役割を縮小する議論ばかりでよいのか</li> <li>・住民代表たる議会の地位の確認…議会の存在意義が問われる状況</li> <li>・議会が議会として機能できる体制づくりが必要</li> </ul>	
	<p>(7) まとめ</p> <p>地方分権の現状と、地方自治、地方議会のあるべき姿を学ぶことができ、非常に有意義な研修だった。</p> <p>自治体行政の取り組みにより、住民サービスが良くも悪くもなること、議会議員には、行政サービスが向上するよう監視し、働きかけていく責任があることを改めて認識した。</p> <p>地方分権の提案制度について、大山町では実績がなく、認識が不足していた。地域振興の支障になっている規制、法律があれば積極的に地方分権により解決できるよう考えていきたい。</p> <p>先般、第3次の議会改革調査特別委員会が設置されたところだが、改めて、地方分権が進むなかでの町議会のあり方について検討し、町民生活の向上につなげていきたい。</p>	